

V 章 調査研究・学会発表実績

1 保健所調査研究事業

地域（市町村、保健所管轄区、二次医療圏等）での地域保健・福祉活動や事業を通して得られた情報や保健・衛生・福祉統計等の各種統計資料等に基づき、地域の健康課題を総合的に把握し、施策化への反映や効果的な事業を展開することによって、地域保健・福祉の充実強化を図ることを目的として実施している。

事業名	元気あふれる地域づくりの推進 ～地域づくりの核となる人材の更なる育成・確保～
実施期間	平成25年7月1日～平成25年11月28日
目的	第2次生涯健康県おおいた21の目標である健康寿命の延伸や健康格差の縮小を実現するためには、個人の努力だけではなく、地域の支え合いが重要である。そこで、北部におけるソーシャルキャピタル（地域関係資源）の醸成を目的に、住民組織を対象に健康習慣や地域での役割意識について、また市の組織育成担当者を対象に組織への関わり等の実態を調査し、住民組織（地域）が活性化するための支援の在り方を検討する。
実施方法	1 食生活改善推進員活動に対する意識調査 （1）調査対象 管内食生活改善推進員、名誉会員、市担当者 （2）調査方法 1）質問紙調査 ①対象：食生活改善推進員 595名 （回答者491人 回収率82.5%） ②内容：健康習慣 地域活動に対する意識 組織活動について 等 2）インタビュー調査 ①対象：食生活改善推進員役員・名誉会員、市担当者 ②内容： ・食生活改善推進員役員 活動状況、活動を続ける秘訣、推進員の地域での役割、課題 等 ・名誉会員 元気の秘訣、活動を続ける秘訣、若い人へのメッセージ 等 ・市担当者 市の取組状況、推進員への期待、必要な支援 等 （3）分析方法 1）本調査のアンケート結果と既存調査結果との比較分析 2）住民組織役員、組織育成者について、3市（中津市・宇佐市・豊後高田市）における組織の現状や課題の分析 等
結果及び考察	調査結果： 管内3市における組織の現状や食生活改善推進員の意識等の調査結果は、報告書にまとめ各市に還元し、今後の組織の活性化に向け活用していく予定である。 考察： ・ヘルスマイトは県内の同年代に比べ、健康で役割意識も高く地域とのつながり（近所つきあい）もあるので、自らが健康づくりの実践者であると共に地域の保健活動の核となる人材であると考えられた。 ・保健所が第3者的な立場で調査することで客観的に実態を把握でき、北部地域全体を見据えた広域的な視野で調査が実施できた。 ・健康づくりや食育の推進は、地域住民が主体となり取り組むことが極めて重要である。推進員がより自主的・主体的に活動できるよう、市担当者、保健所が連携して支援していく必要がある。
事業の実施結果を踏まえた今後の取組み	1 推進員、市、保健所がそれぞれの役割を果たし、さらなる連携の強化、活動の活性化につながるように、まずは組織に対する考え方の統一性をもたせる働きかけを行う。 2 調査結果から明らかになった課題を基に、推進員が自主的、主体的に活動できるように各市と協働し取り組む。

2 その他の調査研究事業

学会等の名称	題目・論旨（担当課名）	著者名 （発表者名）等
第72回 日本公衆衛生学会	<p>題目：医療依存度の高い児の在宅療養支援システムの構築に向けた取組</p> <p>論旨：人工呼吸器等の医療機器を装着しながら在宅で生活する児が増加している中、事例毎に個別支援を行っていたが、現在の支援体制では不十分と感じ、個別支援と平行し、地域で支援する体制づくりに重点をおき取り組んだ結果を考察した。 (地域保健課)</p>	○松原 麻夏 力徳 広子
	<p>題目：B市における地域包括ケア推進に向けた取組</p> <p>論旨：県が実施する地域包括支援センター機能強化事業のモデル市となったB市における地域包括ケア推進に向けた取組を推進するため、当初から各関係機関と顔の見える関係づくりと協議の場の設定等をB市と協力して推し進めてきた。その結果、市や包括等から一定の評価を受けることが出来たので、市や包括等から受けた事業評価から保健所の役割と機能を考察した。 (健康安全企画課・豊後高田保健部)</p>	○植木 小百合 遠入 玲子
第59回 大分県公衆衛生学会	<p>題目：北部保健所「おくすり健康教室」実施結果について</p> <p>論旨：医薬品に対して不安を持つと思われる育児世代と日常的に医薬品や健康食品を使用する高齢者を対象に、医薬品や健康食品に対する正しい知識や理解の普及をはかるため、地元薬剤師会と協働で「おくすり健康教室」を開催し、アンケート調査を実施した結果を報告する。 (衛生課)</p>	○橋本 啓一 小池 明仁 岡本 由美子 中西 健二 山下 剛
	<p>題目：B市における地域包括ケア推進に向けた取組（第二報）</p> <p>論旨：昨年度、地域包括ケアの県のモデル市に指定されたB市が、地域包括ケアの推進に向け前進しているところであるが、更なる地域課題も表面化してきたため、保健所（部）と地域包括支援センターが市主幹課等と連携した取組を振りかえり、課題と今後の方向性について検討をした結果を報告する。 (豊後高田保健部)</p>	○坪根 龍代子 遠入 玲子 植木 小百合 本田 倫江 木崎 茜
	<p>題目：がん在宅医療連携促進の取組～顔のみえる関係づくりをめざして～</p> <p>論旨：がん患者及びその家族が安心して在宅医療を選択できるよう、保健所ではがん在宅医療連携促進検討部会を立ち上げ、推進の要件について検討を重ねた結果、各職種の連携とネットワーク構築が最優先課題とされた。その取組として、まず各機関の声を聞くことから始め、検討部会の組織力を発揮した研修会を実施した結果、連携促進の一助が得られたので報告する。 (地域保健課)</p>	○秦 桂子 森本 千奈津 麻生 紗央里 力徳 広子 安東 秀子 山下 剛
	<p>題目：地域づくりの核となる人材の育成・確保～食生活改善推進員の実態調査から～</p> <p>論旨：「健康日本21（第2次）」では、健康寿命の延伸・健康格差の縮小を実現するため、社会環境整備としてソーシャルキャピタルの向上が挙げられている。また、「地域における行政栄養士による健康づくり及び栄養・食生活の改善の基本指針」では、市町村は地域課題を明らかにし、県（保健所）はその取組を支援するよう位置づけられている。そこで、社会資源（住民組織）を強化し魅力（元気）あふれる地域を実現するために、食生活改善推進員及び育成している市担当者を対象に実態を調査し、住民組織（地域）を活性化するための要因と行政の役割を明らかにしたので報告する。 (地域保健課)</p>	下田 祐子 首藤 睦子 安東 秀子 山下 剛
	<p>題目：未熟児養育医療申請児に対するフォローアップの在り方の検討 ～3歳児健診までを追跡して～</p> <p>論旨：母子保健法の改正により平成25年度から未熟児にかかる保健指導は市町村へ権限委譲された。これを機に過去に未熟児養育医療を申請した児について、家庭訪問や乳幼児健診の受診状況を縦断的に把握し、その結果から、未熟児とその家族へのフォローアップの在り方について検討したので報告する。 (地域保健課)</p>	○森本 千奈津 麻生 紗央里 秦 桂子 力徳 広子 安東 秀子 山下 剛
	<p>題目：小児慢性特定疾患児療養生活調査を実施して</p> <p>論旨：小児慢性特定疾患治療研究事業の制度を利用している児から在宅療養や就学に関する相談を受けることが少なくない現状がある。小児の生活についての実態把握と本人、家族等が抱えている不安や困り事に対する個別支援を行うことで、療養生活支援についての課題を明らかにし、今後の保健活動の方向性を検討したので報告する。 (地域保健課)</p>	○麻生 紗央里 森本 千奈津 秦 桂子 力徳 広子 安東 秀子 山下 剛
	<p>題目：在宅難病患者の緊急時支援体制構築における保健師の役割</p> <p>論旨：管内の神経・筋疾患患者における在宅重症患者数は年々増加している。神経難病の特徴として、病状進行による窒息や意識消失等に伴う救急搬送の可能性があり、緊急時の延命治療に関し、本人・家族への意思確認等が必要となってくる。今回、救急搬送が予測されるケースに対し緊急時支援体制整備に取組み、その経過から在宅難病患者の緊急時支援体制構築における保健師の役割を考察したので報告する。 (地域保健課)</p>	○森屋 美里 岡本 静香 宮崎 裕紀 松原 麻夏 鳴海 有紀子 徳久 恵 安東 秀子 山下 剛

平成25年度 食品衛生監視員、と畜 食鳥検査員、狂犬病 予防員研究発表会	<p>題目：地域コミュニティを活用した動物愛護行政について</p> <p>論旨：当管内の犬の捕獲頭数、引取頭数はいずれも全県（大分市除く）のおよそ25%を占めており、平成20年度には犬の殺処分率が82.4%と非常に高い状況であった。また、猫についても平成24年度は338頭の引取を行い314頭を殺処分している。このような状況のなかで、動物愛護団体や動物愛護推進員等の市民等との協働で、犬・猫の譲渡事業や啓発事業等動物愛護行政を進め、犬・猫の殺処分減等について一定の成果を得ることが出来たので報告する。</p> <p style="text-align: right;">（衛生課）</p>	○ 田代 潔子 衛生課生活衛生・環境班
	<p>題目：牛肉等食肉の腸管出血性大腸菌による汚染状況調査について（第1報）</p> <p>論旨：管内では、他地域と比較し例年多くの腸管出血性大腸菌の感染者が発生しており、感染者からの聞き取りにおいても、焼肉が原因食品と疑われる事例がみられた。そこで、管内で流通している牛肉等食肉の腸管出血性大腸菌による汚染状況調査と食肉の取扱や二次汚染防止に対する住民の意識調査を実施し、管内で感染者数が多い理由について調査した結果を報告する。</p> <p style="text-align: right;">（衛生課）</p>	○ 藤井 章子 衛生課食品衛生・薬事班、 検査担当
	<p>題目：調理実習における衛生管理の実態について</p> <p>論旨：全国の食中毒発生状況の統計では、学校の調理実習の食品を原因とする食中毒が毎年報告されている。当管内でも調理実習の食品が原因と思われる食中毒疑い事例が発生し、調査の結果、食中毒事件とはならなかったが、食中毒予防のために管内の小・中・高等学校の調理実習担当教諭を集め、調理実習における衛生管理について研修会を実施するとともに、衛生管理の実態について調査を行ったので、その概要について報告する。</p> <p style="text-align: right;">（衛生課）</p>	○ 小池 明仁 衛生課食品衛生・薬事班
	<p>題目：高校総体における食品衛生監視指導結果について</p> <p>論旨：「平成25年度全国高等学校総合体育大会」が開催され、当管内でも競技が行われることから、食品による事故を未然に防止するために対策を講じ、食品による事故もなく大会を終えることができた。今回、保健所がおこなった対策のうち宿泊施設・弁当製造施設に対するマニュアルを用いた指導とATP測定機器を活用した拭き取り検査の結果及び食品関係営業施設に対する指導・啓発について報告する。</p> <p style="text-align: right;">（衛生課）</p>	○ 田村 賢一 衛生課食品衛生・薬事班
	<p>題目：健康食品に対する高齢者等の意識調査について</p> <p>論旨：医薬品に対して不安を持つと思われる育児世代と日常的に医薬品や健康食品を使用する高齢者を対象に、医薬品や健康食品に対する正しい知識や理解の普及をはかるため、地元薬剤師会と協働で「おくすり健康教室」を開催し、アンケート調査を実施した結果を報告する。</p> <p style="text-align: right;">（衛生課）</p>	○ 橋本 啓一 小池 明仁 岡本 由美子 中西 健二 山下 剛
<p>大分県臨検検査技師会誌 vol. 22, 23-29 (平成25年5月31日発行分)</p>	<p>題目：VBScript・VBAプログラミング実践 -エクセルの入出力と集計-</p> <p>論旨：エクセルでのデータ受け渡しと、ピボットテーブルによる集計を自動化する方法を解説</p> <p style="text-align: right;">（衛生課）</p>	○ 後藤 高志